



DAIWAの技術で、つなぐ、あゆむ、未来をつくる

大和電設工業株式会社

大和電設工業株式会社

DAIWA

わたしたち大和電設工業は、「技術をつなぐ 地域とあゆむ 未来をつくる」を経営理念に掲げています。そこには、創立以来培ってきた経験、知識、技術をつぎの世代につなげ、ここ東北の生活、文化に寄り添いながら、新しい未来を創っていこう。そういった想いが込められています。

1. 大和電設工業の「今」

大和電設工業は、1949年の創立以来、情報通信インフラ構築を主力事業に、お客様の立場にたった発想と多様なニーズに対応する技術と品質で高度情報化社会に貢献してまいりました。半世紀以上の歴史の中で培われた通信工事施工技術と経験を活かして、土木、電気設備等の社会インフラの建設をはじめとして、防災、福祉、医療、

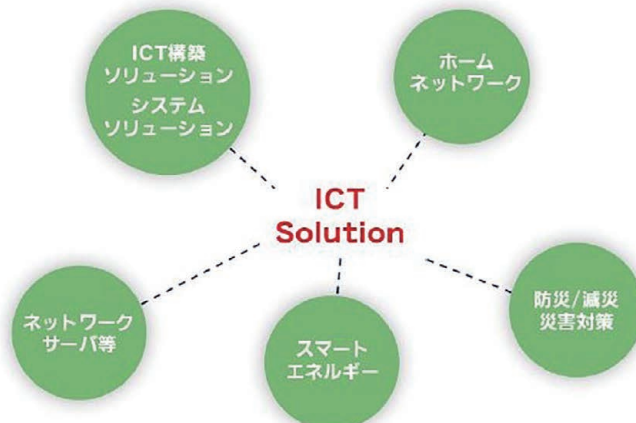
健康、教育、農業、エネルギー等の分野におけるICTソリューションのご提案など、設備構築からシステム設計・施工、運用メンテナンスまで、一貫したサービスを提供しています。お客様が抱える課題に対し、幅広い製品知識と高い技術力をもってお客様の最適な環境づくりを全力でサポートする「トータルソリューション企業」として地域社会の発展に貢献します。

2. 未来志向の経営理念へ

当社を取り巻く事業環境が大きく変化する中、新たな顧客価値を創造し、成長戦略を構築していくことがこれからの課題です。

そこで、数年先の未来を見据え、2018年1月より経営理念を刷新しました。新しい経営理念では、「技術をつなぐ」「地域とあゆむ」「未来をつくる」の3つの理念を掲げています。歴史と

最先端の技術を駆使しICTの価値を高めます



地球温暖化やエネルギー問題など、現代社会が直面している課題は多様です。大和電設工業は、こうした社会課題の解決に貢献するために、長年培ってきた技術力とグループシナジーを活かし、さまざまな戦略を展開しています。常に時代と呼应しながら「新しい価値」を創出し、社会の持続的な成長を促す事がわたしたちの使命です。

わが社の経営理念

経営理念
技術をつなぐ
地域とあゆむ
未来をつくる

私たちは、確かな技術と信頼のもと、地域と共に夢のある未来を目指します。



大和電設工業株式会社

信頼で培われた技術力をもって人と人との社会をつなぎ、東北の企業として東日本大震災による被災地の復興に貢献する使命を忘れず、地域に寄り添い、未来に向けて新しい価値とソリューションを創造する企業となるべく、新経営理念をこれからの大和電設工業の成長を示す道標にしています。

3. 福島第一原発事故からの復興に向けて

福島支店いわき技術センターの事業エ

リアには『福島第一原発』があり、福島県の太平洋側に位置しています。2011年3月11日に発生した東日本大震災（原発事故）による汚染エリア（“帰還困難区域”・“居住制限区域”・“避難指示解除準備区域”）もいまだに多々あり、原発事故からの復興に向けて国は大規模な除染作業を継続して実施しています。

除染作業で取り除いた土壌や放射性物質に汚染された廃棄物（写真1 焼却した後の量で、東京ドームの約13～18倍の量に相当）を最終処分する

までの間、安全に管理・保管するために「中間貯蔵施設」が建設されています（写真2）。

多くの中間貯蔵施設の建設にとともに、汚染物を運ぶための道路整備が盛んに行われており、中間貯蔵施設にかかるアクセス設備や道路拡張に伴った支障移転工事が数多く発生しています（写真3）。

そうした中でNTT様に環境省様等との窓口となっていただき、移転日の調整、他工事との調整などを一体となり取り組んでいます。



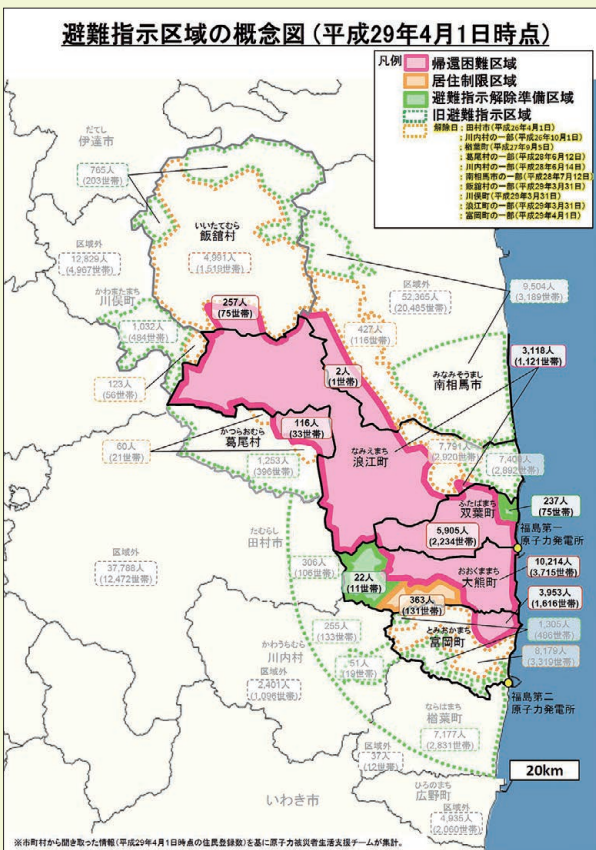
写真1 仮置汚染物（環境省HPより）



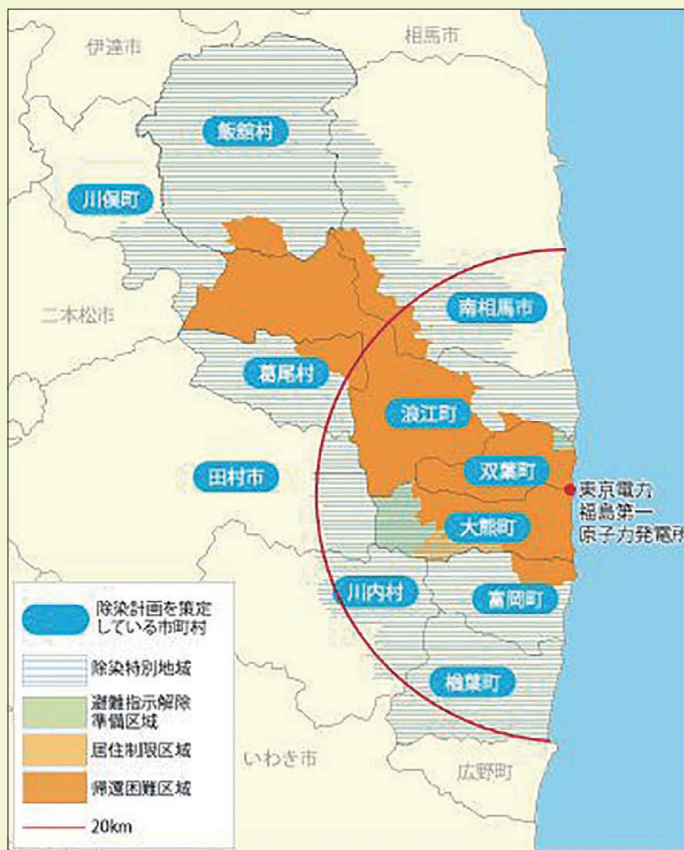
写真2 中間貯蔵設備建築箇所（土壌等整備）



写真3 電柱・ケーブル撤去作業



経産省HPより



環境省HPより

今後も、引き続き工事が続きますが、被災に遭われ各地に点在した方々が無事に帰還し、震災前のように安心した暮らしが取り戻せるよう、NTT様をはじめ関係行政等々連携し、安全・品質第一で取り組んでまいります。

4. 広野町LED電源工事

福島県広野町において、福島第一原発事故により避難している町民の帰還を加速し、帰還された町民へ各種情報を提供することを目的にLED防災情報表示システムが導入されました。導入にあたり、当社は受変電設備、太陽光発電設備、幹線設備、LED表示板用基礎工事、防水改修工事部分を請け負い、2016年3月に完成しました（写真4）。

有事の際には、緊急情報、防災情報、避難情報を正確かつスピーディに広野町民の皆様へ伝える手段として、また住民サービスの向上と観光客向けの情報やイベント情報等、広野町の魅力を発信する手段として活用が期待されています。

5. ニュートリメイトの取り組み

当社開発製品である栄養給食管理システム“ニュートリメイト”は、全国



写真4 広野町役場屋上LED表示板（LED表示板サイズ 縦：1.92m×横：14.4m）

の病院様を中心に多数ご利用いただいています。2018年1月には東京大学医学部附属病院様（1,217床）（写真5）において、電子カルテシステムの刷新に併せ、栄養給食管理システムおよび栄養指導システムも最新版に更新しました。今回のシステム更新にあたっては、患者様ご自身が食事を選択するこれまでの食事選択システム（タッチパネル式）（写真6）に加え、配膳時のミスを防止する目的として、ハンディターミナルを活用した配膳チェックの仕組みを各病棟フロアへ取り入れました。このシステムは食事の配膳時、患者様のリストバンドに表示

されているバーコードとお膳に乗せられている食札（患者様の食事内容が記載されたもの）上に表示されているバーコードを照合してチェックを行う



ニュートリさん



写真5 東京大学医学部附属病院



←写真6 食事選択システム（タッチパネル式）



栄養部門事務室

ものであり、患者様自身の食事の取り違いや配膳担当者の誤配膳防止につながり、インシデントを未然に防ぐものとして大きな効果が期待されています。

現在、ニュートリメイトの国内シェアは500床以上の大規模病院で25%を超え、2017年度には秋田大学医学部附属病院様（613床）、名古屋大学医学部附属病院様（1,035床）に新規でご採用いただくなど、国内の大学病院シェアは40%を超えるものとなりました（2018年1月当社調べ）。

当製品の持つ社会的役割・責任が増す中、①業務効率化に向けた機能強化、②顧客ニーズを的確にとらえた対応、③加速する環境変化や新技術に迅速かつ柔軟に対応することを基本的な取組み姿勢とし、今後のさらなるシェア拡大に向けて、事業展開を進めています。

6. 地域とともに夢のある未来へ向けて

以上のとおり、当社は情報通信インフラ構築を主力事業として、現在さまざまな事業を展開しています。情報の高度化、多様化が進む社会の中で、変化の激しい事業環境に対応し、課題解決および目標達成に向けて柔軟に対応できる人材を育成することが必要です。地域と共に豊かな社会づくりに貢献する企業となるべく、従業員1人ひとりが社会的責任意識および遵法意識を持つことが今後の事業運営にとって重要となります。

そこで当社では、若手・中堅社員向けにマインド研修を実施して、研修を通じて自分自身の原点を見つめ直し、社会に対する自分のかかわり方等を考え、成長のトリガーとする育成研修を設けています。職場においては働き方

改革を継続し、社員1人ひとりが働きがいと高い創造性を持って活躍できる職場環境作りに取り組んでいます。また、事業所周辺の環境美化や町内会や自治体を実施する清掃活動（写真7）、地域の伝統行事へ積極的に参加（写真8）することで、社会とのかかわりを意識し、従業員1人ひとりが環境保全、地域活性化に寄与することを目標としています。

今後も当社は、エクシオグループの一員として、確かな技術と信頼のもと、地域と共に夢のある未来を目指します。



写真7 環境美化活動



写真8 地域伝統行事への参加